

# 施策マネジメントシート

作成日 平成 28 年 8 月 19 日

施策	2 2 地域の文化を育み伝える環境づくり		
施策 主管課	文化財課	氏名	猪股 喜彦
		施策 関係課	

## 1. 現状把握 Plan→Do

### (1) 施策の目的と指標

① 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 ◇歴史・文化遺産 ◇地域住民・市民	③ 対象指標名称 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない (単位)
	a 国・県・市指定文化財の数 件
	b 包蔵地の箇所数 箇所
	c 笛吹市の人口<山梨県笛吹市住民基本台帳行政区別人口統計表(4月1日現在)> 人
② 意図 (対象をどういう状態に変えるのか) ◇(歴史・文化遺産を)保存・活用し、後世に伝える。 ◇(地域住民・市民が)文化財課管理・所管の文化財・文化施設を通じて地域の文化や歴史に触れる。 [郷土館収蔵品、刊行出版物、指定文化財、その他歴史的・文化的遺産、春日居郷土館、八代郷土館、八田家書院、青楓美術館、釈迦堂遺跡博物館]	④ 成果指標名称 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない (単位)
	d 市の歴史・文化遺産や地域の文化に触れたことがある市民の割合 %
	e 史跡めぐり、古道めぐりの参加者、古代史学関係研修会等で史跡を訪れた人数 人
	f 文化施設利用者数(郷土館、書院、美術館) 人
	g
	h
⑤ 成果指標設定の考え方 ◇市民が地域の文化(財)に親しみを持っているかどうかを聞く。アンケート「市内の歴史・文化遺産を見たり触れたりしたことがあるか」 ◇地域文化財の普及・活用状況を文化財めぐり・古道めぐり・歴史フォーラムなど遺産に直接触れる場に参加する人数で判断する。 ◇地域文化財の普及・活用状況を文化施設を訪れる人の数で判断する。	⑥ 成果指標の取得方法 ◇まちづくり基礎調査⇒設問「あなたは、笛吹市の歴史・文化遺産(文化財、神楽などの伝統芸能、道祖神祭などの催事)を見たり参加したりしたことがありますか。」 ◇文化財めぐり・古道めぐり・古代史学関係研修会等で史跡を訪れた人数⇒文化財課把握。 ◇文化施設利用者数⇒文化財課把握。

(2) 指標・事業費等の実績推移と目標値			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
			実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、見込み	最終目標		
対象指標	a 国・県・市指定文化財の数	件	見込み値	212	213	217	218	219	220	221	
			実績値	214	219	217	217	215			
	b 包蔵地の箇所数	箇所	見込み値	741	741	741	741	741	741	741	
			実績値	741	741	741	741	741			
	c 笛吹市の人口<山梨県笛吹市住民基本台帳行政区別人口統計表(4月1日現在)>	人	見込み値	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	
			実績値	72,192	72,145	71,724	71,132	70,749			
成果指標	d 市の歴史・文化遺産や地域の文化に触れたことがある市民の割合	%	成り行き値	45.0	45.0	47.0	47.0	47.0	47.0	47.0	
			目標値	51.0	50.0	50.0	51.0	52.0	53.0	54.0	
			実績値	47.4	50.4	45.2	-	-			
	e 史跡めぐり、古道めぐりの参加者、古代史学関係研修会等で史跡を訪れた人数	人	成り行き値	120	130	140	150	160	170	180	
			目標値	150	160	260	270	280	290	300	
			実績値	250	50	482	510	712			
	f 文化施設利用者数(郷土館、書院、美術館)	人	成り行き値	9,000	9,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	
			目標値	9,400	9,500	5,100	5,200	5,300	5,400	5,500	
			実績値	5,000	5,338	5,967	6,958	7,388			
	g		成り行き値								
			目標値								
			実績値								
h		成り行き値									
		目標値									
		実績値									
施策コスト	事務事業数		本	21	21	12	11	11			
	施策に係る事務事業の コストの合計 (評価外を含み、繰越分を除く)	事業費 (A)		千円	145,412	295,062	110,124	65,680	48,941		
		うち一般財源 (A')		千円	63,656	288,601	46,584	42,865	35,218		
		人件費 (B)		千円	36,931	28,019	17,768	18,319	42,292		
		トータルコスト (A+B) (C)		千円	182,343	323,081	127,892	83,999	91,233		
		うち一財 (A'+B) (C')		千円	100,587	316,620	64,352	61,184	77,510		

### (3) 施策の目標設定の根拠 (水準の理由と前提条件)

<p>●後期基本計画策定に伴い成り行き値、目標値の再設定を行った。</p> <p>◇「笛吹市の歴史・文化遺産や地域の伝統文化・芸術を見たり触れたことがある」市民の割合:成り行き値は、前期基本計画の実績値の平均値とし、目標値は、平成25年度市民の半数程度と設定し、その後、毎年1ポイントの増で設定した。</p> <p>◇史跡めぐり、古道めぐりの参加者、古代史学関係研修会等で史跡を訪れた人数:成り行き値は、H23年度を基に毎年10人増で設定。目標値は、H23年度実績を基にH25年度より毎年10人の増で設定した。</p> <p>◇文化施設利用者数:成り行き値は、H23・24年度を基に減少傾向で設定した。目標値は、H23年度実績を基にH25年度より毎年100人の増で設定した。</p>
---

### (4) 施策の役割分担 (住民と行政との役割分担)

<p>ア) 住民の役割 (住民・地域・団体・事業所が、自助・共助でやるべきこと)</p> <p>◇地域の伝統文化活動に参加したり、後世に伝えていく。</p> <p>◇地域の文化遺産に関心を持ったり、大切に保存したりする。</p>	<p>イ) 行政の役割 (市・県・国がやるべきこと)</p> <p>◇歴史・文化遺産の調査・保護・指定・展示を行う。</p> <p>◇広報紙への記事掲載、冊子の発行、イベントの開催等を通じて、市民(また市外の人)に笛吹市の歴史的・文化的遺産に関する情報を発信する。</p> <p>◇文化施設を通じて市民の歴史的・文化的遺産愛護の心を養い文化財を保護し、後世に伝えていく。</p>
--	---

(5)環境変化（対象者や根拠法令等は5年前と比べてどう変わったのか？）

◇H22年度に笛吹市と山梨県立博物館が、相互の発展・活性化に資することができるよう各種事業(学校教育、生涯学習、文化振興、観光振興等)における連携を目的に協定を結んだ。◇春日居町の寺本庵寺塔跡が拡大し、H21年度に県指定文化財となった。◇平成20年度より甲斐国分寺跡の発掘調査を実施している。◇平成21年度に笛吹市は「甲斐国千年の都」を宣言した。◇平成24年度で史跡甲斐国分寺跡・国分尼寺跡の公有化率は、全体の70%に達した。

(6)関係者の意見・要望（住民、議会、対象者、利害関係者等）

◇議会から、市内の文化財を積極的に活用し、県内外にPRしていくよう求められている。◇「文化財めぐり」「古道めぐり」参加者から、開催回数を増やして欲しいという要望が強い。◇議会や市民から史跡甲斐国分寺跡・国分尼寺跡の早期整備実現や活用策について求められている。

2. H27年度の施策の実績 Check

(1)施策の成果実績

Table with 2 columns: Evaluation items (e.g., ① 目標達成度評価, ② 時系列比較, ③ 他自治体との成果実績値の比較) and Background/Notes (⇒左記の背景として考えられること). Includes a table for '自治体名' with '南アルプス市' listed.

(2)施策のコスト実績（対象1単位当たり又は住民一人当たりのコスト）

Table with 6 columns: Target name (笛吹市の人口), Unit, 25年度, 26年度, 27年度, Efficiency evaluation. Rows include: \*対象指標実績値 (D), \*対象1単位当たり事業費, \*対象1単位当たり人件費, \*対象1単位当たりトータルコスト.

(3)施策の現状と課題の総括

H27年度は、文化財保護事業として重要文化財山梨岡神社本殿の保存修理の現地見学会を実施し、修理の様子を間近に見られる機会を市民に提供した。また、文化財活用事業として「芦川散策会」や「古道めぐり」を行ない、芦川の兜造民家や石垣、石和地区の御幸道を歩き、市民に身近な歴史・文化的遺産に親しんでもらった。また八田家書院の雛飾り・武者飾りや博物館特別展の開催を中心に市民に文化財に親しむ機会を設けた。

3. 後期基本計画の取り組み方針(29年度) Action

(1)現状と課題から導き出した次年度の取り組み方針

◇市民に笛吹市の文化財について知ってもらうには多面的な事業を通じて周知し、興味を持ってもらう。印刷物はもちろんのこと、実物を自分の目で見てもらうことは強い印象を与えるので、文化財めぐり・古道めぐりや現地説明会を積極的に開催する。◇市立博物館・美術館(春日居郷土館・八代郷土館・青楓美術館)及び八田家書院の活動を充実させ、教育普及活動に取り組み、市内の小学生を対象に配布した無料パスポート(フッキーパス)を有効に活用し、入館者増を図る。

(2)施策の対象を、目標に導くための次年度の手段

◇市民に笛吹市の文化財について知ってもらい、興味をもってもらうため、多面的なメニューの提供と文化財めぐりや現地説明会、出前教室の回数を増やす。◇市立博物館・美術館(春日居郷土館・青楓美術館)に学芸員を常時配置し、博物館活動を充実させる。◇フッキーパスの活用を促進する。◇HPや電子媒体等を積極的に活用し、市民に情報発信する。